

## 2-1 “食形態アップ”する場合の基本的な対応フローチャート

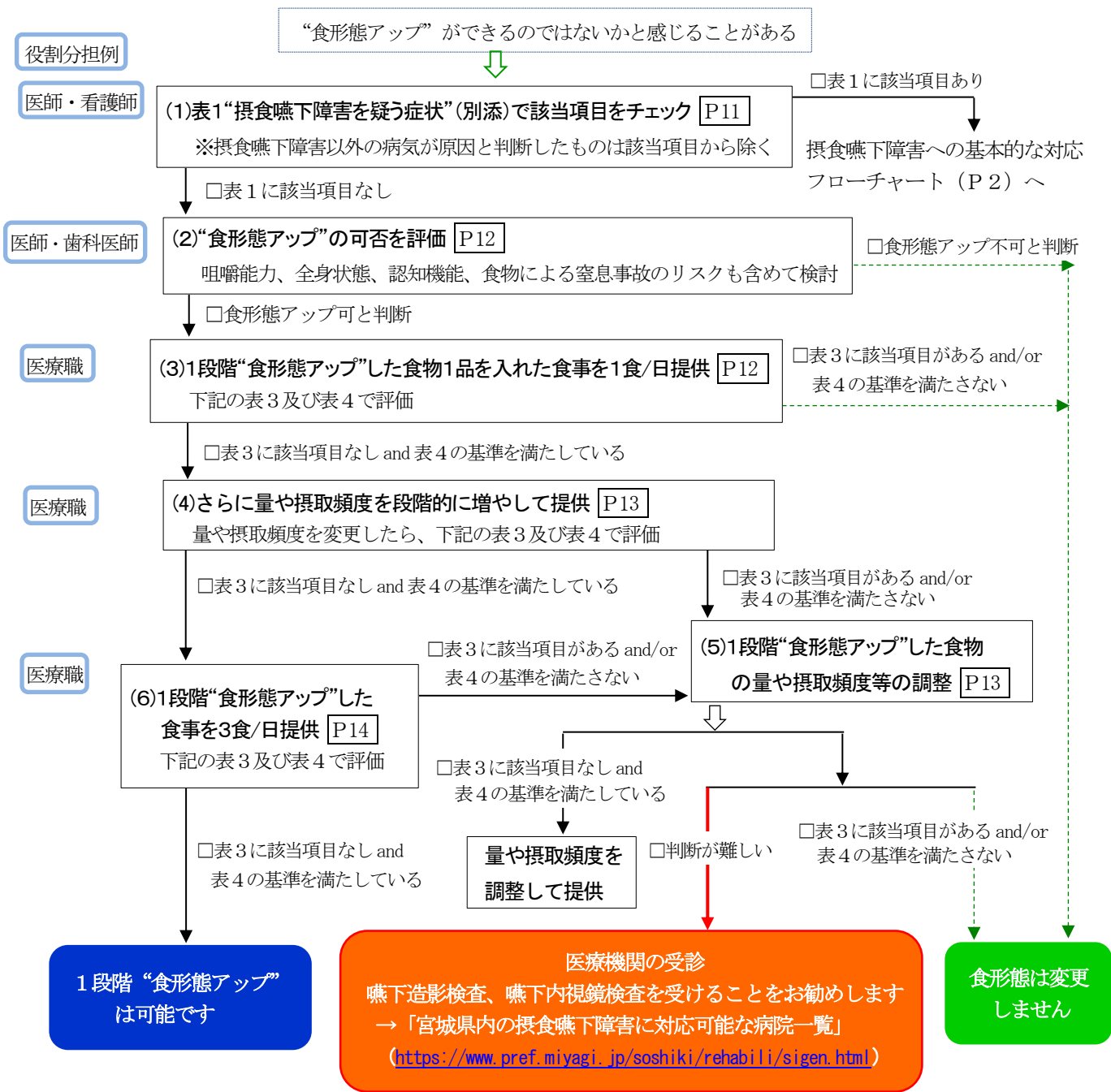


表3“食形態アップ検討時のチェックポイント”

- 発熱の有無 □呼吸状態、呼吸音 □排痰量 □むせの有無（食事中、食後）
- 咳の有無（特に夜間） □声（声がかすれる等） □嚥下後の口腔内残留
- 飲み込みづらい、のどの残留感、食事をすると疲れる等の訴え □体重減少

表4“食形態アップの基準”

摂食時間が30分以内で、7割以上摂食が3日間（又は9食）以上つづいたとき

（※）表3及び表4は柴本勇、2015.<sup>8)</sup>を参考に作成。

❖本フローチャートは、「学会分類2021（食事）早見表」（P15参照）の段階にもとづき1段階“食形態アップ”する場合の対応の目安を示しています。なお、フローチャートの結果にかかわらず“食形態アップ”したい、不安がある、判断できない場合などは、嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査を受けることをご検討ください。